

イラン出張報告

H29年9月26日

睦合南地域包括支援センター

看護師 土屋 まさみ

訪問先：イランイスラム共和国（ヤズド市・キャラジ市）

期間：H29.9.17～H29.9.24

派遣依頼：NPO イランの障害者を支援するミントの会

依頼内容；研修会における講演・個別相談・文化交流等

実施内容

1. イラン共同組合・労働・社会福祉省ベヘジシテイ主催の全国研修会（9月17、18日）における講演

テーマ：「日本における障害者リハビリテーションとバリアフリー環境」
～高齢者を支える日本の制度～

内容：イラン中央部の都市ヤズドにて開催された研修会は上記のテーマで看護師、PT、OT、ST、SW など120名が参加し2日間にわたって行われた。2日目の午前中に、「高齢者を支える日本の制度」という演題名で、介護保険を中心として介護保険導入までの経緯、介護保険サービス内容について40分程度説明をした。

講演後には多くの質問があった。主なものは以下の通りであった。

- ①介護保険制度を行う為の費用はどこから出ているのか。
- ②お金を払えない貧しい人はどうしているのか。
- ③介護保険は何歳から払うのか。



感想：イランは家族で介護することが通常なので、福祉用具や住宅の改修が安いお金でできれば、大分助けになると思われる。

道路や歩道が整備されていない所が多いので、車椅子の人はなかなか外出することができない。それらも変わりつつある。

2. 個別相談：褥瘡の在宅ケアについて

個別相談では褥瘡のホームケアの相談を受けた。

写真のケースは若い女性の脊髄損傷であるが、安静にしているうちに、いつの間にか褥瘡になっていた。気が付いた時はひどい状態で今もその状態のままとの事。エアーマットもイランで作られているようだが、性能や普及は低い様子であった。



3. イランでの介護予防見聞、その他雑感

キャラジ宿泊施設の隣では毎日、6:30頃、出勤前の人や高齢者が運動をしていた。仲間に入れてもらって体操したが、かなりハードなリズム体操だった。運動器具も公園内に沢山あり、皆で利用していた（写真下参照）。

公園内をウォーキングしている人も沢山いた。日本でももっと時間にゆとりを持って、朝の運動ができれば介護予防に役立つと思われる。

日本でも参考にしたいと思った。イランの皆さんは、親しみやすく親切だった。



イランのカラスは白黒模様



街中で見かける寄付金箱